

みんなが笑顔に「わくハピ交流会」

～仙台市立大和小学校～



大和小学校は、大和町・志波町・中倉地区に位置し、かつて田畠が広がっていた地域が都市化し、現在では高層住宅や商業施設が立ち並ぶ活気ある住宅地となっています。地域の方々による見守り活動や交流も盛んで、学校と地域が連携しながら、こどもたちの成長を支えています。

【わくハピ交流会とは？】

大和小学校では、地域の方々との交流を目的とした「わくハピ交流会」を実施しています。この交流会は、今回で3回目の実施となります。令和6年度までは、6年生と地域の方々だけでの実施でしたが、令和7年度からは、より地域の方々に喜んでいただこうと、児童会のお祭り「大和まつり」と一緒に行うこととなり、6年生が地域の方々を招待しました。交流会当日は、ご高齢の地域の方々も安全に、楽しく参加できるように、「昔遊び」「風船バレー」「ボッチャ」「すわって体操」「ストラックボッチャ」「NGワードゲーム」などのコーナーが準備されていました。

こどもの声

地域の方々と楽しく交流

地域の方々とこどもたちの交流



○普段の生活でなかなか関わらない人と交流できて良かったです。

○お年寄りを楽しませるように工夫してたくさんのお年寄りが来てくれたので、これからも交流会を続けていきたいです。

○地域のみなさんと関わる事は、すごく楽しかったです。自作の体操を楽しくやってくれていて、たくさんほめてくれて、とてもうれしかったです。

○自分自身も楽しかったし、地域の人も楽しく体を動かせたと思いました。

○地域の人たちとゲームなどで交流することができてとても楽しかったです。

地域の声

小学校が地域づくりの起点に



右:大和蒲町地域包括支援センター

菅原 智裕さん

左:大和蒲町地域包括支援センター

梶山 真理さん

「ニコニコ交流会」に関わっている大和蒲町地域包括支援センターのお二人にお話を伺うことができました。

梶山さんは、「お互いに『おはよう』とか、『今日元気?』とか『寒いね』という、気軽な会話から地域の方々がこどもたちを気に掛けたり、こどもたちが地域の方々を気に掛けたりという関係性が作れたらいいのかなと思っていました。」と話してくれました。

菅原さんは「地域の方々が自分の強さや、社会的な必要性というのを自覚してくれるすごくいい効果があると思っています。地域づくりや高齢者福祉だけではなく、小学校はこの街の福祉の起点にもなってもらっている。こどもたちのおかげです。この関わりが伝統になってくれるとうれしいです。」と話してくれました。

こどもたちと地域の方々との交流が、お互いにとてもよい効果を生み出していることを実感されているようです。

学校の声

こどもたちの安心・安全な学校生活を目指して

地域の方々を優しく案内する6年生



大和小学校の栗津教頭は、地域との交流活動に関して、次のように答えてくれました。

「地域の方々との交流活動を通じて、こどもたちは、地域の方々から『見守られている』、『ありのままの自分を受け入れてもらっている』という安心感が生まれていると感じています。また、多様な価値観に接することで、自分とは違う『異質なもの』への寛容さを育っていくことができると思います。地域の方々が『できない部分』への想像力を持つことで、ケアの精神の育成についても、大変効果があると感じています。」

【まとめ】

大和小学校では、地域の方々が定期的に来校し、様々な活動を行っています。「地域の方が学校にいることが日常」となっている学校で、こどもたちも活動の様子を見に来ることもあるそうです。今回の交流会でも、こどもたちは自然に地域の方々に接することができていて、とても温かい雰囲気に包まれていました。地域の方々からも、「こどもの声が聞けて元気になった」との声がありました。学校と地域の関わり合いが、こどもたちと地域の方々の自己有用感を高め、相乗効果をもたらしているようです。地域の起点としての大和小学校の取組は、今後も続いていきます。

